

## [2] 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：35 問	
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	● あり	○ なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>全体的な難易度は昨年比でやや易化。問題数も 1 問減少したが、解答に時間がかかる組み合わせによる 6 択問題が増加。特に真新しい形式の問題は見られず、内容も過去問の学習で対応できる問題がほとんどであった。サンゴ礁の形態別分布の問題、ODA の拠出状況の問題など、一部で判断が難しい問題も見られた。地形図については、地形そのものの読み取りや地図記号の知識量が求められる問題は見られず、易しかった。</p>			

## [3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界の自然環境	16 点	地形断面図、ハイサーグラフ、河川流量の問題など、出題頻度の高い形式のオーソドックスな構成であった。サンゴ礁の問題は判断が難しかったが、全体的には標準レベルの問題。
第 2 問	世界の資源と産業	18 点	地図、グラフ、表を用いたオーソドックスな構成であった。問 3 の粗鋼生産量と造船竣工量の問題は問われているものが何なのかきちんと読み取れないと難しい。
第 3 問	生活文化と都市	17 点	教科書レベルの知識できちんと正答できる基本的な問題が多かった。問 6 の問題は過去にも同様の形式の地図問題が出題されている。
第 4 問	アフリカの地誌	18 点	地理 A のような生活に関する問題が多く見られた。教科書レベルの知識できちんと正答できる基本的な問題が多かった。アフリカ大陸の標高の問題、アフリカの都市の問題はやや難しかったか。
第 5 問	現代世界の諸課題	15 点	ODA の拠出状況の問題は今年の問題の中で最も難しい問題と言えるが、その他の問題は地理の基本知識で正答できる問題であった。
第 6 問	地域調査（佐賀県）	16 点	地形の読み取りの問題が出題されず、地図記号の知識量も多くを求められなかったため、地図・資料のみで判定できる易しい問題が多かった。